

対馬暖流の流量は平年並み  
対馬暖流の流路は石狩湾を境に沖よりから岸よりへ  
今後沿岸水温は平年よりもかなり高めで推移する模様

2020年5月下旬から6月上旬に実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

対馬暖流は松前沖西方の東経139度の海域を北上し、その後積丹半島沖、石狩湾沖にそれぞれ形成されている暖水域、冷水域を大きく迂回し、雄冬岬以北では沿岸に沿って流れています（図1c）。対馬暖流の流量は約1.4Sv（1Sv=10<sup>6</sup>m<sup>3</sup>/s）であり、例年よりも若干多くなっています（6月流量の平年値は1.2Sv）。暖流流量は令和元年12月から平年よりも低いレベルで推移していましたが、今回の観測により、平年並みに戻ったことが確認されました。

50m水温は、沿岸域を中心に広く10℃以上になっています（図1a）。50m深水温偏差は石狩湾沖の冷水域を除き、全体的に平年よりも高くなっていますが、特に道南の対馬暖流が流れる海域、積丹半島沖の暖水域では平年よりも約2～3℃高くなっています（図1b）

余市前浜水温は6月上旬では「かなり高い」でしたが（※1）、今後の気温が平年よりも高めに推移する予報となっていますので（※2）、今後沿岸水温は平年よりもかなり高めで推移することが予想されます。

※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyau/suion/index.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>



余市前浜水温



気象庁1ヶ月予報

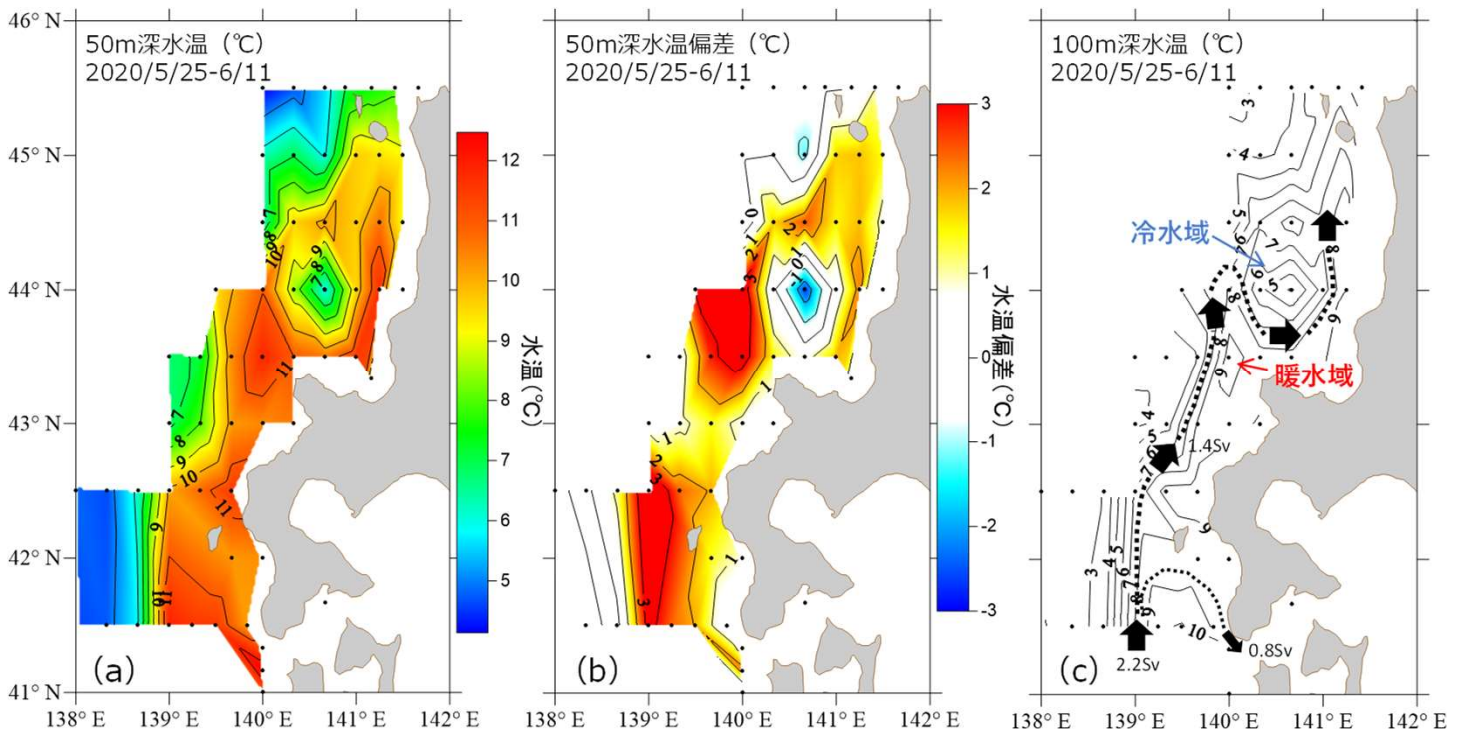


図1 2020年5月下旬から6月上旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流量と流路。水温偏差は過去30年（1989年～2018年）の平均値から算出。流量の単位はSv（=1×10<sup>6</sup>m<sup>3</sup>/s）。